

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



44



たかはし動物病院長
(富山市城川原)
高橋 明寿

犬や猫にも緑内障があるのを、ご存じでしょうか。

ヒトとの大きな違いとして、発症すると治癒しない進行性の疾患ということ。また、初期のうちには病院に來られるケースは非常に少なく、飼い主が異変に気づき、來院した時点では視覚の回復が見込めないことが多いです。

動物の緑内障では、眼内圧上昇とこれに起因する一時的あるいは永久的な神経障害を特徴とします。眼球内は房水、水晶体、硝子体で満たされており、眼内圧は産出する房水の量と排出する房水の量によって調整されています。犬猫の緑内障は、さまざまな原因

犬猫の緑内障

視覚維持へ早期診察



眼圧検査を受ける猫

因で房水の排出が障害を受けると、眼内圧が上昇し、視神経や網膜の機能が保てなくなります。眼内圧が非常に高い状態では24〜48時間以内に視覚を失います。緑内障には外傷や眼内腫瘍、白内障、水晶体脱臼、ぶどう膜炎、網膜剥離などが原因となる続発緑内障、それらに当てはまらない原発緑内障、生まれつき緑内障を伴

った先天緑内障があります。原発緑内障は、種の特異性や遺伝性が疑われています。柴犬が非常に多く、アメリカンコッカー、シーズー、ビーグル、トイプードル、ゴールデンレトリバーなども多いです。続発緑内障は柴犬、アメリカンコッカー、トイプードルなどが多いです。猫はほとんどが続発緑内

障で、ぶどう膜炎や腫瘍が原因となります。

緑内障の初期症状に、目を気にしたり、かゆがたりしている▽目を布団にこすりつける▽最近寝ている時間が長い▽涙が多い▽目が赤い▽目やにが多い▽などがあります。これらは他の目の病気でよく見られますが、緑内障であれば、この段階で発見しないと視覚維持の期間に影響します。

少しでも長く視覚を維持するために、早めに動物病院で相談することを勧めます。治療法や検査は、診察時点で視覚回復の可能性があるかどうかで変わります。内科的治療が必要な場合があれば、外科的治療が必要な場合もあります。検査も眼圧検査や眼底検査など目の検査だけでなく、全身状態をみるための血液検査やレントゲン検査、時にはCT(コンピュータ断層撮影装置)やMRI(磁気共鳴画像装置)の検査が必要なものもあります。